技術室報告「特記事項なし」

観測班　Yasuyosi　HUJITA

はじめに

2008 年の 10 月頃、e メールによる連絡がありました。防災研究所技術室において第 10 号技術室報告編集会議と称する会議があり、2008 年度退職予定者は 10 ページ以上を目安とした原稿を提出するように決まったので、原稿を提出するようにとの内容でした。

これに対し、メールで原稿集め担当者に「すみません。書けません。勘弁して下さい」と返事したところ、「困る、書け。」との返事。(おまけに会議メンバーと思われる皆に Cc で回覧される始末！)仕方がないので、何故書けないかの理由をメールにより連絡いたしました。メール内容のコピー、ペーストは少し障りもありますので、以下、箇条書きにしますと。

1　私は研究者ではないので、論文もどきの内容は書けないこと。
2　エッセイ風の文章を書くには文才が皆無なこと。
3　A4 サイズ 10 ページを埋める為に、あまり意味のない大きな写真を多数貼り付ける等の手段で枚数の消化をすると、人々の顰蹙を買う可能性があること。
4　全員一律、10 ページ以上強制など方法に無理があり、内容のレベルの低い原稿が多いと京都大学の名誉沽券に関りかねないこと。それならば、ある一定の水準に達しない原稿(私の原稿などです)は、始めから密かに削除した方が少しは益しということ。

等を縷々述べたのであります。

残念ながら馬耳東風の反応で、今度は Cc 無しで「困る、書け。」のお返事。その後、10 ページが無理なら 2 ページでも良いとの妥協があり、2 ページというのは A4 用紙二枚弱のことかと聞けば、「いや、二枚強だ」、「それは無理だ、二枚弱でなんとか」、「いや、適当な写真など貼り付けて二枚強くらいに」、「活字のポイントを大きくして水増しをすればどうやろ」「いや、フォントサイズは決まっている」といった様な、我ながら低レベルのやりとりがありまして、結果がこの原稿です。

原稿集めの仕事というのは、物分りが良すぎて相手に同情してしまう性格の人では難しいでしょうし、味噌糞判断がつかなくてもまた困る。結構大変な仕事であろうと同情もするのでありますが、書かされる方は困り、読まされる方はもっと困る。（私を含めて）これが京都大学防災研究所技術室の惨状、もとい、現状です。

一縷の希望があるとすれば、今年度は団塊の世代の大量退職があり、私を含めた老害爺共が一掃される予定です。（もっとも、ほとんどが年金満額支給年齢まで再雇用予定ですから実際にすぐに居なくなる訳ではないが、影響力はほとんど無くなる）。若い優秀な人達と入れ替われば、マンパワーの底上げが自動的にされるわけで、そうなれば少なくとも、この原稿のような駄文が京都大学の名前のもとに人々の目に晒される事態も無くなる・・・・・と期待したい。

以降、本題とゆーか近況報告です。

近況報告

定年退職予定者は A4 用紙 10 ページの報告書を用意せよというのは、多少は技術室の点数稼ぎ（内容はともかく、出版物の発行は成果）もあるのでしょうが、永年の勤務者に対するご褒美の意味で、成果発表の場所を与えてあげるという善意の発露でもあると捉えております。ご祝儀のイベントの意味もあると思えます。しかしながら、

私が永年勤務してきた当研究施設は、近々に閉鎖され、施設廃棄の為の事務処理手続きに入る予定です。廃止理由は多分、過去の研究成果と将来の展望が見えないことを問われた結果である、と認識しておりますが、私としては、企業に例えればリストラ、倒産、会社更生法申請中という気分なのです。この状況下では「私はン十年の勤務でこんな成果、あんな成果、赫赫たる戦果を挙げた」の類のお祝い文など書き様も無く、はじめの「すみません。書けません。勘弁して下さい」になるのですが、上記のような体たらく。

特に報告する内容も無いので、「特に記すること無し。特記事項無し」ということで。（やっぱ、二ページ足らず）

以下、研究施設風景